

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)適切な言葉を用いて文章を書いたり、正しく計算の答えを導き出したりすることのできる資質・能力 (2)すぐに答えを導き出せない課題に対して、粘り強く取り組むことのできる資質・能力	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)単元計画に習熟を図る時間を設定する。【各単元の中で1回以上】 (2)課題を明確にすること、個別最適な学習あるいは協働的な学習を充実させるとともに、振り返りを意識した単元計画を立て、実践する。【各単元】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態		

①学校全体での取組
②単元テスト・定期テスト等の分析・活用
③中間評価を経ての取組
④調査結果を活用した授業

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が昨年度からの課題であったが、今回の全国学力・学習状況調査においては、昨年度と比較しわずかに向上がみられた。情報の扱い方に関する事項では昨年度同様、正答率が低い結果となった。算数では、図形の問題において昨年度の課題であったが、わずかではあるが正答率が上がり、向上がみられた。「測定」の問題や「変化と関係」は昨年度と同様に正答率が低い結果となった。「国語・算数の勉強は好きですか」の質問項目における肯定的な回答が、国語がR7 約64%からR8 約77%と上昇した反面、算数はR7 約62%からR8 約39%と減少し、結果に差がみられた。	
結果から考えられる 児童生徒の実態	国語では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の問題において昨年度から課題があった。「話すこと・聞くこと」では、本校で唯一正答率が70%を超え、各教科で対話を取り入れた授業を展開したことで、話したり聞いたりする活動が身についていることが考えられる。「読むこと」については、今年度は若干上昇したものの昨年度同様に正答率が低く、目的に応じて必要な情報を見付けことや、文章を理解し、自分の考えをまとめる問題に苦手意識のある児童が多いことが結果として現れていると考えられる。算数では、昨年度に引き続き「測定」「変化と関係」に課題がみられた。百分率で表された割合と比較量から基準量を求めたり、混み具合を求める問題において課題のある児童が多い。また、「算数の勉強が好きだ」という質問への肯定的な回答が減少するとともに無回答率が上昇している。このことから、算数的な活動から興味関心を高めたり、日常生活との結び付きに気付かせたりと算数の学習と生活との結び付きを意識することが必要である。	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	(1)単元計画において、学習内容の定着を図る時間を確保することができ、概ね目標通りだった。また、ドリルやワークシート、ICTを活用した課題の配信を行い、習熟を図ることができた。 (2)学級で単元・本時の課題を設定する学習計画を立てたり、教科や単元に応じてICTを活用し自由進度学習の形態を取り入れたりと、振り返りを含め、児童の実態や学習内容に応じた単元計画を立てることができた。
	B	
学力向上策の 見直し	単元計画や授業内において習熟の時間を確保しているところではあるが、個々の実態に応じた習熟への取り組み方を検討・共有し、学校全体で取り組む。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

教育研究所